
エムラクリームによる穿刺痛緩和への取り組み

—実態調査から見える課題—

川田真与、阿部 智
秋田厚生医療センター 腎センター

Efforts to reduce puncture pain with emla cream —Reveald problem from the fact-finding survey—

Mayo Kawata, Satoshi Abe
Hemodialysis Center, Akita Kousei Medical Center

<緒言>

透析患者にとって穿刺時の痛みは大きなストレスであり¹⁾、看護師にとっても透析時のストレスを緩和することは課題である。穿刺部痛の緩和として当院ではリドカインテープまたはエムラクリームを使用しているが、現在エムラクリームの使用率は少なく、エムラクリームを使用したか、リドカインテープに変更を希望される患者もいた。また、エムラクリームの使用の実態に関する先行研究は少なく、使用の効果と実態については明らかになっていない。そこでエムラクリーム使用経験のある患者にアンケート調査を行い、使用の実態と効果、課題を明らかにすることが必要であると考えた。

<方法>

対象：リドカインテープとエムラクリーム両方を使用したことのある外来透析患者15名

データ収集方法：無記名による質問（留め置き法）

データ分析方法：質問紙による単純集計

穿刺痛の評価においてはNRS（Numerical Rating Scale）で評価した。

<本研究での用語の定義>

リドカインテープ：貼付用局所麻酔剤

エムラクリーム：リドカイン-プロピトカイン配合クリーム（2015年より透析領域での臨床応用開始。当院では2019年7月より採用）

エムラクリーム使用開始時には看護師がパンフレットを用いて使用について指導している。（図1）

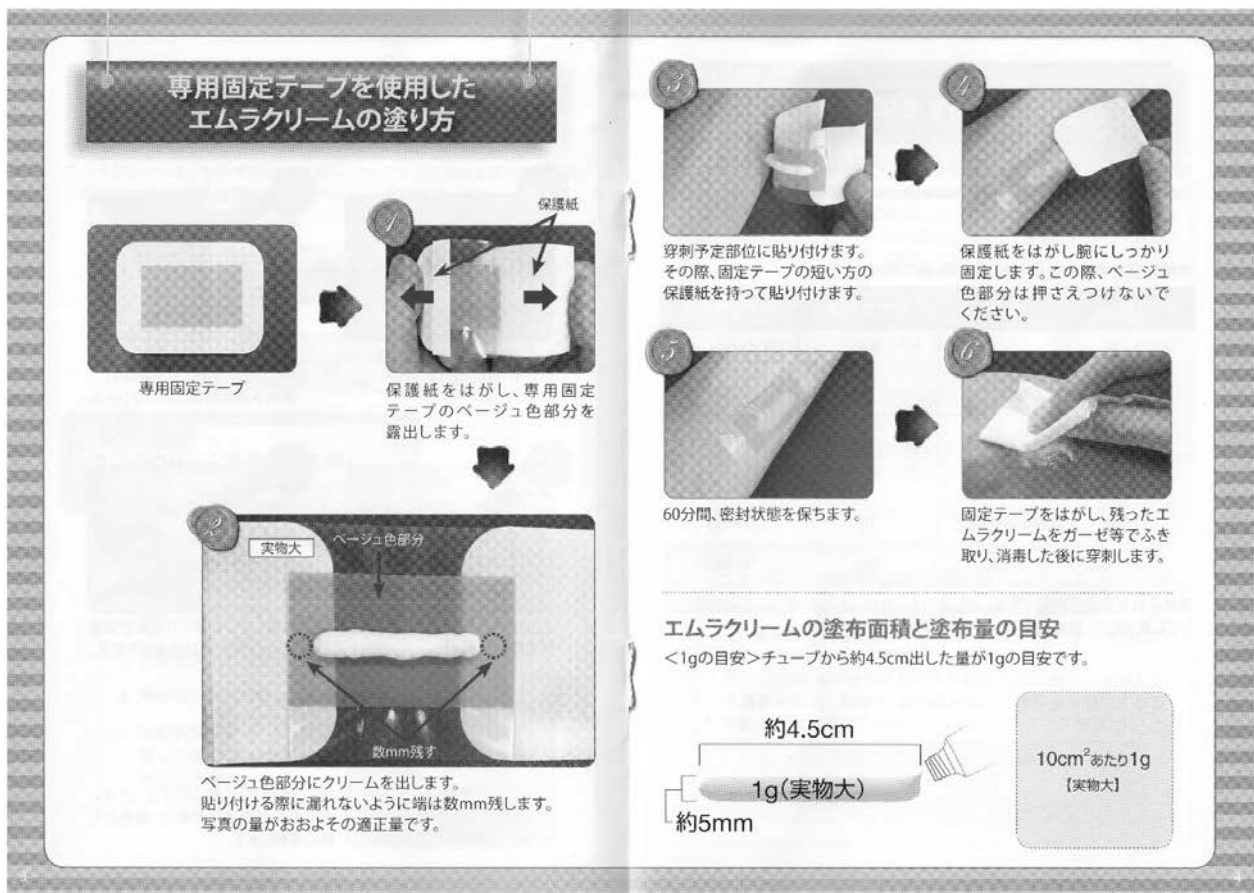


図1 エムラクリーム使用開始時の指導用パンフレット
扶桑薬品工業株式会社 「エムラクリームをご使用の透析患者さんへ」より転用

<結果>

当院透析患者数146名のうちエムラクリーム使用患者は15名の10.3%。対象者15名に対し質問紙調査を行い、回収率は80%（12名）であった。エムラクリームを継続して使用している患者は92%（11人）。穿刺痛のNRSは何も使用しない場合では平均8.27であったのに対しリドカインテープ使用下では平均6.66、エムラクリーム使用下では平均3.16という結果となった。「どちらが効果あるか」という質問に対しエムラクリームとの回答は84%（10名）。エムラクリームの塗布は透析前1時間～2時間前が最も多く58%であり、30分～1時間前は25%、2時間以上前は13%であった（図2）。使用のしやすさについては「まあまあそう思う」が75%（9名）。「あまりそう思わない」が8%（1名）「全くそう思わない」が8%（1名）。（図3）その理由として「テープを貼るのが難しい」4件。「時間がかかる」が4件。「片手での作業が難しい」「洗浄が大変」「工程が多い」が3件ずつであった。（図4）自由回答として、「片手でやるため家族等の協力が必要になる」「クリームとテープが一体となっているといい」「洗浄後穿刺部の位置がわからなくなる」「効果がいいので穿刺数時間後に痛みを生じることがある」という意見であった。

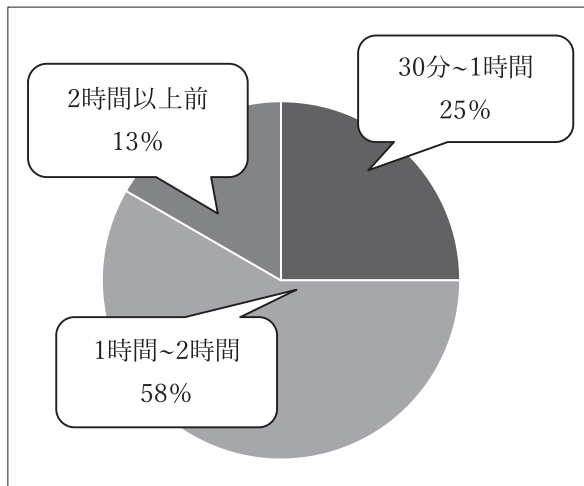


図2 エムラクリーム塗布時間

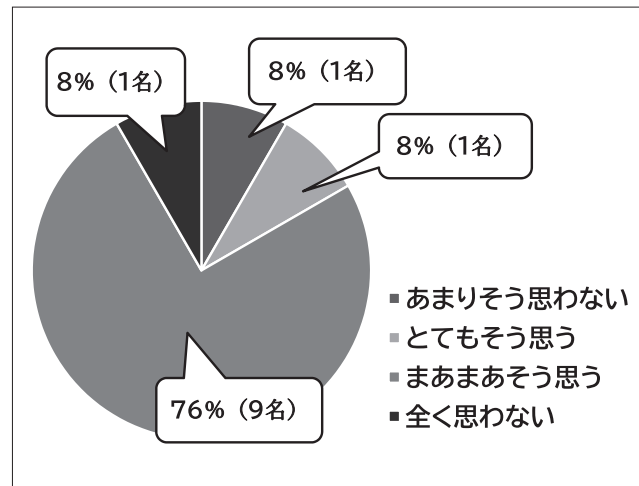


図3 エムラクリームの使いやすさ

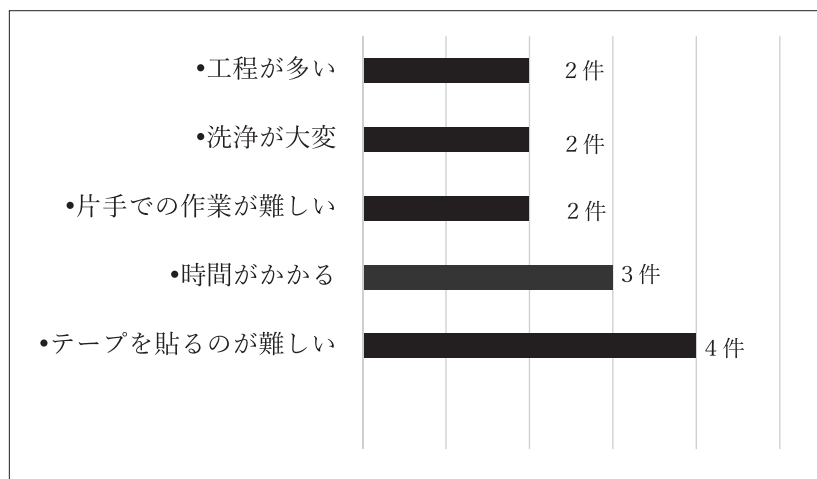


図4 「とても使いやすい」と回答した人以外の意見（複数回答可）

<考察>

質問紙調査の結果、穿刺痛のNRSの平均は、使用しない場合では8.27、リドカインテープ使用では6.66、エムラクリーム使用では3.16であったことから、エムラクリームの方が、穿刺痛の緩和に効果的であり、さらに84%の患者がエムラクリームの方が効果があると答えていた。これは先行研究²⁾³⁾のエムラクリームが穿刺痛に有用であるという報告と相違ない結果である。しかし、使用開始前の指導では塗布後1時間密封としているが、実際では30分~1時間との回答が25%であった。エムラクリームは塗布後、60分密封しなければ穿刺血管までの薬剤の浸透は十分ではなく効果は得られないことから、残念ながら指導内容が不十分か、理解が得られないまま使用されていたことになる。今後患者の理解度の確認と再指導を行うとともに、指導する看護師の指導内容の確認と情報共有が必要である。エムラクリームは穿刺痛の緩和に効果的であるのに反し、使用率は当院透析患者の約10%である。エムラクリームの使用感についての意見では、「テープを貼るのが難しい」「片手での作業が難しい」などの使用の手技にマイナスなイメージを持っていることがわかった。「時間がかかる」「工程が多い」という意見に対しては、リドカインテープと比較して手順が

多いこともエムラクリームの使用に至らない原因となっていると考える。また、透析患者の平均年齢は高齢化しており、現状での透析患者の身体機能、療養における社会背景や周囲のサポート体制は多様である⁴⁾。多少痛みを感じても手技の取得が難しく工程が多いことは、全ての患者に利便性が良いとは言い難い。実際に双方を使用した結果、リドカインテープ使用を希望された患者の意見も「時間がかかる」「工程が多い」であった。今後透析患者にエムラクリームの使用を勧めるにあたり、患者の身体機能や社会的背景、サポート状況を捉えた的確でわかりやすい指導の検討は必須である。

<結語>

- 1) エムラクリームは透析時の穿刺部痛緩和に有用である。
- 2) エムラクリームの有効な塗布時間を実施出来ていない例があった。
- 3) エムラクリームの使用における手技や工程についてマイナスイメージがあった。
- 4) エムラクリーム使用開始時には、身体機能やサポート状況を捉えた的確でわかりやすい指導が必要である。

<利益相互>

本論文内容に関連し、発表者らに開示すべき利益相互はない。

<引用・参考文献>

- 1) 能登宏光、能登 舞、加藤 彩、他：慢性腎不全患者の血液透析時におけるストレスに関する検討：秋田腎不全学会会誌 20、162～170、2017.
- 2) 内村英輝、安田万里絵、内山清貴、他：リドカイン-プロピトカイン配合クリーム（エムラクリーム）による透析穿刺痛の緩和：透析会誌 50（7）、477～482、2017.
- 3) 住吉 真、田上英子、河中智加、他：当院におけるエムラクリーム使用についての実態調査：中国腎不全研究会会誌 27、67～70、2018.
- 4) 吉田佳代、村瀬千恵美、岡山ミサ子：セルフケアを阻む要因：透析ケア2014年冬季増刊 10～11、2014.